

地産地消の家づくり
に取り組む

大工・工務店

豊かな森林資源に恵まれている青森県。

その地元の山々から伐り出された木で、

『地産地消』の家づくりに懸命に取り組んでいる人々がいます。

木を育て、木を生かす――

彼らはそんなゆるぎない信念と

古来から培われてきた匠の技によって、

県産材の家を造り続けています。



稲見建築設計事務所



木村 様邸

ユーザー訪問

DATA

南津軽郡藤崎町藤崎

2012年5月竣工

■延べ床面積/52.00坪(172.24㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台、家具)、スギ(柱、床)、アカマツ(梁)など。

県産材を使った家づくりをいかに若い世代に広めていくか。そのテーマに先駆けて取り組んでいる稲見建築設計事務所の家づくりは「県産材＋モダン」がコンセプト。今回紹介の木村様邸は、ガルバリウム鋼板を張った洋風外観ながら、中に入ると、床も天井も板張りの木の空間が広がる。スギ床で気持ち良さそうに生後7か月の赤ちゃんがハイハイする2階のリビングで、木村様の「県産材＋モダン」に惹かれた経緯を伺った。

金曜日の夕刊チェック 手当たり次第に見学会

ご主人の話 私と妻も、家をいろいろ見て歩くことが大好きで、結婚する前のデートの行先も展示場や完成見学会でした。2年前に結婚してからそれぞれは続いて、金曜日の夕刊に載る見学会の広告をチェックしては、手当たり次第に見に行った



リビングから続くモダンなイメージで統一されている和室。吊った押し入れの下部から照明がついているように明かりが射し込む

ものです。見るのが好き、というだけでなく、実際に結婚後には新築する計画でしたので、充分

に見て、納得する相手に依頼したい思いで真剣に見歩いていました。



木の木目と壁の漆喰の白が“和”と“洋”のハーモニーをかなでるリビングルーム

奥様の話 金曜日にも、いつものように夕刊を開いたら、見学会の広告が出ていました。場所は青森市西滝で、主催は稲見建築設計事務所というところでした。主人と行ってみました。その住宅を一目見て、別格だな、って感じました。それまでのような工務店のいろいろな住宅を見てきましたけど、感性が違うというか、建築士が手掛けた家はこうもセンスが違うのかといった驚きがありましたね。主人もそう感じたそうです。外壁



部屋のデザインに溶け込んでいる最新式の冷暖房装置



は1階がスギ板、2階はガルバリウム鋼板。スギ板はいわば“和”で、ガルバリウム鋼板は“洋”です。その和洋の調和が、垢抜けていましたね。中に入ってみると、リビングの床が板敷きでした。「チェリー(桜)っぽく

見えますけれど、これ、スギなんですよ。県産の無垢のスギです。チエリーの色が好きだというお施主様の要望で、桜色の自然塗料を塗ってあるんです」と説明してくれたのが稲見さん（稲見公介一級建築士）でした。床の木の色と、内壁の漆喰とがしっかりと溶け合っていて、落ち着いた雰囲気です。わたしも主人もすっかり気に入ってしまったのでここにこのまま住みたいなって思ったほどです。

ご主人の話 その見学会で初めて見たのが、風の出ない冷房装置です。パネルに近づいてみたら、表面に汗をかいています。「結露する際に空気中の熱を奪う輻射式の冷房方法です」と稲見さんが説明してくれました。私も妻もエアコンが嫌いでしたから、何か良い方法はないかって実は探していたんです。暖房もパネルヒーターを暖める輻射式で、ヒートポンプと組み合わせているから省エネ性が高いのだそうです。稲見さんがそう

言うのだから間違いない、と思わせるところが稲見さんの説得力ですよ。

奥様の話 ふつう見学会って、見終わった後に、アンケート用紙に住所とか名前を記入するじゃないですか。前に行ってきた工務店の社員がその住所を

見てアパートに営業にきたことがありますよ。でも、稲見さんは、見学にきてくれたことに笑顔でお礼を言うだけで、住所や名前のごことは一言も言いません。むしろこつちから、書かなくてもいいんですかって聞きたくなるくらいに「押し」がまったく

ありませんでした。そのことにも、好印象を抱きました。建物も、稲見さんも、どちらも別格でした。

**スギ床で子供ハイハイ
自然素材の安心感実感**

ご主人の話 あちこち見学し



部屋の一部としてデザインされている筋交い



リンゴの紋りかすで作した紙を使った照明器具

た中から、どこに依頼するか、まずは大まかに工務店と設計事務所とに分けました。図面通りに工事されているかどうかを監理するのが建築士で、われわれが現場を見ても工事の内容は分かりません。打ち合わせは図面上で済ませ、それがその通りに現場に反映されているかどうか、われわれに代わってちゃんと監理してくれる人が一

番信頼できますよね。そう考えて、設計事務所の方を選びました。絞り込んだ3社の設計事務所のうち、稲見さんの事務所にアポなしで訪ねて行ったのが昨年(2011年)の春先でした。外で洗車していた稲見さんが、見学会のときのように笑顔で迎えてくれました。

奥様の話 初めは平屋で建てる計画だったんですよ。階段つて段差がだから、その前で歩みが止まっちゃうじゃないですか。平屋であれば同じ平面を動いているわけだからスムーズですよ。それで平屋を希望したんですけど、稲見さんによると、基礎の長さ

と屋根面積が2階建ての倍になるから、同じ面積を平屋で考えるならその分高くなるということでした。稲見さんがそう言われるのだから、平屋は止めて2階建てに



お子様にも優しい無垢の床板

と、基礎の長さや屋根面積が2階建ての倍になるから、同じ面積を平屋で考えるならその分高くなるということでした。稲見さんがそう言われるのだから、平屋は止めて2階建てに

することにしたんです。**ご主人の話** どうせ階段を付けるのなら、2階に上がるときだけ使う階段じゃなく、帰宅したらそのまま真っ直ぐ階段を上がつていくようにリビングを2階に設けることにしました。結果的には、窓が高い位置にあるので外からの視線も気にならないし、陽が射し込んで明るいし、正解でしたね。

Architecture Design Office **INAMI**

稲見建築設計事務所
 青森市佃1-5-7
 TEL.017-742-2636 FAX.017-742-2637
 http://www.a173.org
 E-mail : staff@a173.org

■第5回あおり産木造住宅コンテスト優秀賞受賞

有限会社 岩木建設



畑中 様邸

ユーザー訪問

DATA

むつ市横迎町

2012年5月竣工

■延べ床面積／40.00坪(132.49㎡)

■使用青森県産材／ヒバ(土台、内壁)、スギ(柱、床、天井、内壁)、アオダモ(梁)、ケヤキ(上がり框、階段、カウンター、デッキ)、クリ(下屋の独立柱)など。

畑中様が「木の家」と出会ったのは、テレビの「森の雫」であった。2年前、A.T.V青森テレビが県の広報番組として放映している画面に、県産のスギを使つて建てたという住宅が映し出された。奥様は、「こんな家がいい」と見た瞬間に惹き寄せられたという。いずればむつ市内に建てる計画で、展示場や見学会に足を運んでいたが、奥様が言うには「ビビッとくるものがなかった」そうだ。求めているのは、クロスや合板ではなく自然の木。県産材の家のことをもつと知りたくて、県庁の林政課に電話をかけると、送られてきたパンフレットの最初のページに、建築を依頼することになる(有)岩木建設の展示場が紹介されていた。

展示場の木の色に魅力 床の板と頑丈そうな梁

奥様の話 建てるなら木の家がいいなとは漠然とながらも



リビングとひと続きになった開放的なキッチン

思っていたんですよ。極端に言えば、ログハウスみたいな、木で建てたとすぐに分かる家です

ね。テレビで紹介していたのは、青森市のK社が建てた住宅で、ログハウスではなかったんです



部屋のアクセントにもなっている遊び心あふれる飾り棚

が、それでも外壁にも内壁にも板が張られていて、充分に木の家であることが伝わってきました。こういう建て方もあるんだな、と一つの発見でしたね。

それと、「県産材」という呼び方に「新鮮」な響きを感じられました。地元テレビで県産材の家を紹介しているのだから、それなら自分の家にも県産材が使えらんだって思ってた。木材のことって、ふつう工務店任せじゃないですか。それが急に「県産材」と「わが家」が結び付

いたような気がして、その身近さが新鮮に思えたんでしょう。

県産材を使っている工務店はK社だけなのか。むつ市内にはないのか。そのへんを聞いてみると県庁の林政課に電話してみたんですよ。届いたパンフレットを見て知ったのは、住宅コンテストでした。「あおもり産木造住宅コンテスト」。地元の木材を使って県内に建てられた家を対象に実施しているのだそうです。それと、同封されていた「青森県産材使用長寿命化住宅モデル事例集」を見て、県産材で建てた展示場が県内にあることも初めて知りました。しかも、15軒も。せっかくあるのですから1軒1軒訪ねてみようと思いつきながら、事例集を開いたら、最初のページに、グッと惹き込まれたんです。

リビングのフロアリングから、柔らかな木の感触が伝わってきました。節のあるところがいかに自然です。天井にも板が張られ、吹き抜けには太



木の風合いがあたたかな雰囲気を出す明るいリビング



リビングのシンボルになっている薪ストーブ。これ1台で全室を暖める



リビングに光を取り込むための2階の“ガラス張りの廊下”

くて頑丈そうな梁が架けられています。木の色つて、癒されますよね。思わず写真の木を撫でたりしてね。

落ち着いた黒色の外壁 直射遮る1間幅の下屋

ご主人の話 そのページに紹介されていたのが、岩木建設の

展示場だったんです。場所は十和田市。私、高校の教員をしていますが、日曜も部活の指導があるからなかなか時間が取れなかったのですが、いつもどおりに日曜に部活へ出かけていったら、予定よりも早く終わったので、それじゃこれから展示場を見に行こうと妻に電話をしました。妻が、岩木建設の事務所に連絡すると、岩木社長（岩木勝志社長）の携帯につながって、私たちはむつから、岩木社長は出かけていた八戸から展示場へ向かうことになったんです。

パンフを見ただけでもビビッときたほどですから、目の当たりにした展示場の木の空間には圧倒される思いで、私も妻も、出てくる言葉は、いいなあ、いいなあ、だけでしたね。これぞ求めている木の家でした。体験宿泊できると知って、その場で申し込みました。

岩木社長の話 展示場ばかりでなく、当社で建てたお客様の家へもうちの専務（岩木社長の



直射日光を遮る1間幅の下屋と、重量感のある縁台風の青森ヒバのデッキ

奥様が何軒かご案内させていただけました。その中で、畑中様ご夫婦がそろって気に入ったのが、昨年(2011年)、七戸町に建てたT様のお宅でした。黒い外壁、直射日光を遮る1間(1・8メートル)幅の下屋、床も内壁も板張りのリビングダイニング、キッチンから正面に見える太い梁、それと薪ストーブ

ですね。どれも気に入ってくださいました。畑中様のお宅も、外壁は黒色で、建物の正面に下屋を設け、キッチンに立てばアオダモの太い梁が見えます。実際の現場から次のお客様へとつながっていくことは、建てる側としてもうれしいことです。
奥様の話 スギの板は柔らかいから、表面にキズが付きやす

いって聞いていたので、ちょっと気にはなっていたんですけど、展示場に宿泊したときに素足の感触がとっても良くて、子供たちも気持ちよさそうに走り回っているのを見てからは、キズは二の次になっちゃいました。新築して初めて迎えるこの冬も、家族で、素足で過ごそうと思っていますよ。

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp

■第5回あおもり産木造住宅コンテスト最優秀賞受賞



梅田建設



M様邸

ユーザー訪問

DATA 青森市北金沢
2012年10月竣工
■延べ床面積/50坪(165.62㎡)
■使用青森県産材/天然青森ヒバ無垢材

山から伐り出した天然青森ヒバを、製材所で粗挽きし、倉庫で何年も寝かせて天然乾燥させる。木は、水分が抜けると反る。反った木の表面を鉋で削って使う。それが無垢材の使い方だ——。梅田建設の梅田初男棟梁にとつて、反りもせず割れもしない人工の集成材は木ではない。あくまでも無垢のヒバを使って建てることに梅田棟梁は一徹こだわる。そんな昔ながらの頑なな職人気質に惹かれるのは年輩者に限ったことではない。青森市北金沢に完成したM様邸を訪ねると、仄かに漂うヒバの清々しい香りがいかにもふさわしい若夫婦が玄関で迎えてくれた。

使う木は天然青森ヒバ 職人気質に惚れ込んだ

ご主人の話 結婚したら家を建てる計画でした。5年経って、予定していた頭金が貯まったので、本格的に依頼する工



奥様のピアノ室にもヒバの羽目板が張られている



天然の無垢のヒバをふんだんに使用したリビングルーム



大黒柱も1本物のヒバを使用

務店探し”を始めました。主に青森市内にある展示場とか、新聞広告で見た完成見学会に行ってみましたが、どの家も新しく綺麗で立派だし、それぞれがみんな良く見えて、選ぶところまではいけませんでした。

奥様の話 雑誌でキッチンや洗面化粧台などの設備機器を眺めても、ではどれにするか選ぶとなると、わたしも主人も、なかなか決められないんです。住宅についても同じで、見た中から一つ選ぶとなるとだめなん

ですよ。

ご主人の話 そんなときに、「梅田さんはどうかな」と妻が言ったんです。知らない工務店などに頼むよりも、梅田さんなら妻の実家を建てている大工さんだし、今も梅田さんとの付き合いは続いていると聞いていましたから安心かな、と思うようになりました。

奥様の話 わたしの母方の祖母が、青森市内にアパートを建てたときに依頼したのが梅田さん(梅田棟梁)でした。わたし



ヒバの木肌が落ち着いた雰囲気をかもし出す和の空間

がまだ生まれる前のことで、祖父が勤めていた職場の方から梅田さんを紹介されたそうなんです。梅田さんとお付き合いは、そこから始まりました。祖父が梅田さんをとてても気に入ったのは、ヒバを使ってくれたからなんだそうです。ヒバは銘木だから、ふつう、アパートには使わないのだそうですが、梅田さんは住宅、アパートの区別なく、請け負った建物に使う木は

ヒバと決めていて、その心意気が気に入ったのでしよう。

アパートの次は、わたしの両親ですね、二人が結婚して今から30年ほど前に梅田さんで自宅を建てました。その次は、今から20年前に祖父が自宅を建てるなど、親戚の多くが梅田さんにお世話になりました。そして、今回のわたしたちの家です。母が梅田さんに、娘夫婦が家を計画しているから最近建てた家を見学させてほしい、と電話してくれました。

祖父母、両親、娘夫婦 家族ぐるみの付き合い

ご主人の話 妻は梅田さんと顔見知りですが、私はその住宅を拜見しに行ったときに初めてお会いしました。にこっとする笑顔の良いお方で、妻が、梅田さん、梅田さん、つて親しげに呼ぶのが分かったような気がしました。

ヒバのこととなると梅田さんは熱心な口調になって、「これも



2階の階段ホールに設けられたご主人の書斎スペースも“木の空間”



ご主人が図面を書いたという作り付けのテレビボードと梅田棟梁からの新築祝いのヒバのテーブル



ご主人の書斎のディスクカウンターも1枚物のヒバが使われている

ヒバ、あれもヒバ」と誇らしげに柱や内装材などを指差して言うんです。梅田さんが使うのは、ヒバはヒバでも「無垢のヒバ」です。貼り合せた人工の集成材ではなく、あくまでも山から伐り出した自然のヒバに徹底してこだわっているんだとか。妻の家族が30年以上もお付き合っているのは、頑固なまでの職人気質に惚れ込んでいますからでしょう。

階段を上がったところのスペースが私の書斎になっています

す。窓辺に設けたディスクカウンターはヒバです。1枚物のヒバで、寸法が「3寸、750ミリ、2700ミリ」です。つまり、厚さが9センチ、奥行きが75センチ、長さが2メートル70センチの板ということです。製材所でようやく厚くて長いヒバを見つけたと、梅田さんが教えてくれました。梅田さんって、ヒバの話となると子供みたいな笑顔になりますよ。

奥様の話 リビングのテレビボードは、主人が図面を書いて、それを梅田さんが造作してくれたものです。作り付けだから、地震があっても倒れないので安心です。中央に置いてあるヒバのテーブルは、梅田さんからの新築祝いです。分厚いヒバで作ったものと梅田さんが誇らしげに話していました。

遊びにやってきた祖母が、和室のヒバの入り口戸や柱や天井（格天井）を眺めて、「やっばり梅田さんはいいね」と出来栄えに目を細めていましたよ。

梅田建設

青森市大字内真部字岸田21
TEL.017-754-3139 FAX.017-754-4522



株式会社 大山建工



向井 博徳 様邸 ユーザー訪問

DATA

上北郡東北町外蛭沢

2012年9月竣工

■延べ床面積／85.00坪 (281.55㎡)

■使用青森県産材／ヒバ(土台)、スギ(柱)、オンコ(柱)、ケヤキ(階段)、アカマツ(梁)など。

田畑合わせて20町歩(20ヘクタール)を耕作する大規模農家の向井博徳様。雪が降り積もる前のナガイモの収穫に追われる11月下旬、昼の休憩時間を割いて取材に応じてくれることになった。緩い坂道の前方に見える

大きな切妻屋根の建物が向井様邸であった。延べ85坪。家も大きければ屋敷も広く、敷地面積は1ヘクタール(約3000坪)もあるという。屋敷内に植えられてある樹齢400年のオンコの木や、解体した既存

の家の柱のケヤキ、それに曾祖父が山に植えたというスギなど、使われている木材はすべて県産材だ。中でも取り分け美しい木肌を見せている2階のアカマツの登り梁は、(株)大山建工の展示場を見て向井様が惚れ込



既存の家に使われていた1尺のオンコの柱を8寸に加工して階段わきの柱に使用している

んだダイナミックな丸太梁を、リビングの天井に斜めに架けて野性味を再現したものである。

展示場見学が決め手に 木組みの丸太梁に圧倒

「ご主人の話 大山建工に依頼したきっかけは「ショールーム」なんです。八戸市に行くことが多くて、行くたびに国道45号沿いに建っている大山建工のショールームを目にしています。一度、中を見てみたいものだなと思いつつ何年も通り過ぎていたんですが、いよいよ家の建て替えが具体化してきて、妻と一緒にショールームに入ってみました。

応対してくれたのが畠山さん(畠山賢次郎営業課長)でした。「展示場を見てくださいか」と畠山さんが、八戸市の白山台にある展示場(八戸ニュータウン展示場。2012年売却)へ案内してくれました。この展示場が「決め手」となったんです。

2階のリビングを見て圧倒されました。太い丸太の梁が交差して架けられた造りは今までに見たことがありませんでした。「木組み」という日本建築の伝統工法なのだそうです。梁は地元のアカマツを使っていて、アカマツの持つ美しさを大工が技で引き出して使っているから美しくなるんだと、畠山さんが誇らしそうに話していました。木をふんだんに見せた造りが、建てたいと希望していた和風住宅のイメージに合っていて、私も妻もすっかり気に入りました。

畠山営業課長の話 向井様の屋敷には樹齢400年になるオノコの木が植えられています。400年前に、何代か前のご先祖が植えたものだそうです。ご自宅のそばに1列に並んで立っています。その場所は、以前は隣の屋敷との境目だったんです。このあたりでは「うつつ木」を隣地との境に植える習慣があります。向井様のところはオ





伝統的な和の雰囲気を醸し出す和室

ノコの木を植えて、それを境界線の代わりにしていたんです。今は隣地も買い増しして向井様の土地になっていますが、江戸時代の名残りを留めるその8本のオンコのうち、2本を伐つて、向井様の家の柱にしました。それと、解体した築50年のお父様の家に使われていた太さ1尺(約30センチ)のオンコの柱を、8寸(約24センチ)に加工し、それも柱として使っています。先祖代々の歴史が新しい家に引き継がれているんです。

自社の山から伐り出す何年も寝かせ自然乾燥

ご主人の話 展示場のほかに、大山建工が田向地区に建てた新築住宅も見学させていただきました。その家も、展示場のように2階にリビングがあつて、曲がりのあるアカマツの丸太梁が架けられていました。他社では見られないダイナミックな野性味ですよね。住宅だけでなく、畠山さんが五戸町にある本

社の木材加工センターへも案内してくれました。大山建工では、自社で山を所有していて、これから建てる住宅の梁や柱にふさわしいアカマツやスギなどを選んで伐り倒し、乾燥させて、加工するんだそうです。使う木材は自社の山も含めてほとんどが青森県産材だそうです。説明を受けながら、セーターに積まれてある木材の膨大な量に圧倒されていました。伐つてから何年も寝かせて自然乾燥させているんだそうです。木を大事にしている会社だなって思いましたね。



江戸時代に植えられたという庭のオンコの木



目に柔らかな色合いの県産材が迎え入れてくれる玄関

畠山営業課長の話 お父様が50年前に家を建てるときに、屋内のケヤキの木を何本か伐つて柱に使ったそうです。そのケヤキを加工して、今度は向井様邸の階段材に使いました。ケヤキの木は屋敷内にまだ3本残っています。樹齢180年だとか。ゆくゆくはお嬢様が建て替えるときにまた伐られるのでしよう。代々引き継がれる、地産地消の家です。

ご主人の話 実は、2人の娘たちははしゃげた洋風の外観の家を希望していたんです。住宅雑誌に載っている、女の子が気に入るようなケーキみたいな洋風の家……。イメージ的には分かりますが、私も妻も、和風住宅の方が流行に左右されず、時間が過ぎても古くならないという意見で、娘たちはその意向を組んでくれました。

江戸時代からのオンコの木が育つ歴史ある土地には、日本建築の伝統技が生きる和風の家が似合いますよね。

(建物写真提供/大山建工設計部 赤坂修一氏)

真心こめた住まいづくり

株式会社 大山建工

本社 ●三戸郡五戸町大字切谷内字淋代14-1
TEL.0178-68-3353 FAX.0178-68-2454

本 部 ●八戸市大字河原木字千刈田7-1
TEL.0178-21-3055 FAX.0178-21-3033
<http://ooyamano-ie.jp/>

青森営業所 ●青森市東大野1丁目8-3
TEL.017-762-3001 FAX.017-729-0488

